

平成 20 年度 第 3 回日本家庭医療学会理事会議事録

日 時：2008 年 11 月 9 日(日) 8:30～12:30

会 場：天満研修センター 802 号室

出席者：代表理事 山田隆司

副代表理事 竹村洋典（以下は、委任状による出席）葛西龍樹

理 事 朝倉健太郎、雨森正記、内山富士雄、大西弘高、大橋博樹、
草場鉄周、小林 裕幸、長 純一、西村真紀、伴信太郎、藤
沼康樹、前野哲博、松下 明、横谷省治

監 事 亀谷 学、山本 和利

幹 事 福土元春

若手家庭医部会 松井善典

理事会に先立ち、山田代表理事より 10 月 27 日にご逝去された白浜雅司理事に対し、長年の学会活動への貢献に対しての感謝が述べられた後、全員で一分間の黙とうを行った。

1. 会員数報告、新入会員承認、会費未納退会者

山田代表理事より、2008 年 10 月 31 日現在の会員数について報告があった。

つづいて新入会者について承認された。

会員数：1,896 名（うち、医師会員 1,750 名）

入会者： 69 名（2008 年 8 月 1 日～2008 年 10 月 31 日）

退会者： 1 名（2008 年 8 月 1 日～2008 年 10 月 31 日）

復帰者： 2 名（2008 年 8 月 1 日～2008 年 10 月 31 日）

未納者： 51 名（2005 年 3 月 31 日まで納入済み、2008 年度末時点で未納の場合、退会となる人）

会費未納率：28%（2008 年 10 月 31 日現在）

2. 平成 20 年度収支決算中間報告

山田代表理事より、平成 20 年度会計年度の中間報告があった。各事業、管理費の収支見込みと 9 月末の実績について説明がなされた。年度末の繰越残高は 200 万円弱が予想されることについて報告があり、合併に向けて適正な収支を見込んでいきたいと述べられた。ま

た、今後の学会運営についての意見交換が行われた結果、2010 年度末までの学会誌の発行予定回数を 6 回から 5 回に変更すること、学会開催事業への参加会員に対し会費納入状況の確認を行うことが決定した。

3. 常設委員会・部会報告（担当理事）

◇ 編集委員会《会誌『家庭医療』》

藤沼理事より、11 月下旬に会誌秋号が完成予定であること、合併を前にした企画を考案中であることが報告された。

◇ 広報委員会

松下理事より、広報委員会の活動について以下の報告があった。

● 会報について

予定通り年 4 回の発行を続けており、次号は今月下旬に発行される予定である。

● 学会 HP について

「家庭医療学会 HP に関するアンケート」を実施した。今回の結果を踏まえて内容等を改善していく予定である（結果は学会 HP の会員専用ページに掲載）。

● 市民向け HP について

現在活動が停止している状態であるため、既存の委員を改めて委員し直したうえで企画を進めていく。

● 患者一般向け出版物について

前回の理事会で報告があった「医者からもらった薬を整理しませんか（仮題）」の企画は動き始めたところであり、来年中の出版を目指して進めている。

● 委員会としての広報活動について

特に来年度の専門医試験や来年 3 月に正式なプログラムの修了者が誕生することに関する広報活動について、どのように新しい家庭医というものを売り出していくかを委員会として考案中である。

また、大橋理事より、学会 HP に掲載された後期研修プログラムの内容について、全てのプログラムが給与や条件面など同じ項目を記載して比較できる内容にしてほしいとの提案が初期研修の先生から個人的に寄せられていることが報告され、広報委員会で検討されることになった。

◇ 生涯教育委員会

● 生涯教育ワークショップについて

雨森理事より、今回は昨年の 1.5 倍となる 400 名の参加があったことが報告された。来年度の開催地は、京都で学術会議が開催されること、参加者アンケートの結果などを参考にしながら最終決定を行う予定であることが述べられた。また、昨日の委員会では、合併に向けて PC 学会の生涯教育委員に加わっていただき、拡大委員会として内容を考える案などが出されたことなどが報告された。

●サテライトワークショップについて

伴理事より、9月に広島で開催されたサテライトワークショップについて、一瀬委員の尽力により予定人数とほぼ同じ参加者が集まり、収支マイナス 2 万円、未収金が 22000 円となったことが報告された。また、ワークショップ講師一名が家庭の都合によりキャンセルとなり、急遽、別の講師が 2 コマのセッションを行ったことが報告された。この件について、伴理事より臨機応変に対応した講師に対し 2 セッション分の謝金をお支払いしたいとの提案があり、承認された。今後は、今回のワークショップを担当した一瀬委員によるワークショップの手順書を作成したうえで、次回は名古屋で開催することを検討していること、今回の参加者は地元医師会の参加者が多かったことから、委員会では地元医師会とのリンクに貢献できるのではないかとの意見が出されたことが報告された。

●出版活動のサポートについて

伴理事より、生涯教育委員会と分担して『SCENE』の増補版を作成したこと、その他の出版活動については今後メーリングリストを通じて継続して検討することとなったことが報告された。

●協力委員について

伴理事より、企画運営に参加していただく協力委員を公募する予定であることが述べられた。

◇ 研究委員会

●臨床研究初学者ワーキンググループについて

大西理事より、4回のワークショップを全て終了し、支出、収入ともに 28 万円となったことが報告された。また、同ワークショップがワーキンググループにより運営されていることについて位置づけが曖昧になっているため、委員会として運営する案が出され、合意を得た。また、次年度も継続する予定であることが述べられた。

◇ 倫理委員会

前野理事より、9月以降の申請が 4 件あったことが報告された。

大西理事より、臨床研究に関する倫理のルールやシステムの現状について、雑誌等を通じて発信していく必要があるのではないかとの意見が出された。

◇ 後期研修（認定）委員会

竹村副代表理事より、家庭医療専門医認定試験を2009年7月19日、20日に東京慈恵医科大学で行うことが報告された。また、以下の報告があった。

●合併後の専門医認定制度について

- ・ 3学会合同認定制度検討委員会で作成した案を3学会合同会議で検討した後、各学会にてさらに議論を重ね、最終的に3学会合同会議にて決定する流れになっている。
- ・ 現在は3学会合同認定制度検討委員会で要綱を作成しており、プログラム認定に関しては家庭医療学会のプログラム認定の精神も温存した形で進めることが決定している。
- ・ 試験に関してはプライマリケア医の認定と同様に行われるだろうと考えているが、ポートフォリオとしての事例報告評価を行うかについては今後の話し合いによって決まる予定である。
- ・ 要綱に付随して多くの細則が作成されることになっており、各学会で分担して作業を進めた後に今月末の会議でひとつひとつ検証することになっている。当学会ではプログラム認定、研修医の認定、プログラム責任者の会に関することなどを担当。

●プログラム責任者の会について

プログラム責任者の会の規定に従い、以下のとおり各ブロックの責任者、プログラム責任者の会代表を決定した。

■プログラム責任者の会代表

高木 幸夫 先生（京都民医連中央病院）

■北海道・東北ブロック

草場 鉄周 先生（北海道家庭医療学センター 本輪西サテライトクリニック）

■関東ブロック

前野 哲博 先生（筑波大学附属病院 総合臨床教育センター）

■中部・北陸・甲信越ブロック

尾関 俊紀 先生（協立総合病院 総合診療部）

■近畿ブロック

高木 幸夫 先生（京都民医連中央病院）

■中国・四国ブロック

松下 明 先生（奈義ファミリークリニック）

■九州・沖縄ブロック

中桶 了太 先生（長崎大学医学部歯学部附属病院）

プログラム責任者の会よりオブザーバーとして高木先生が出席され、以下の意見が述べられた。

- ・ 「北海道・東北」や「九州・沖縄」など広範囲なブロックは交流がしづらい部分があり、ブロック内での活動をどのように行っていくかが課題である。
- ・ 近畿では来年3月に後期研修医のポートフォリオ発表会を計画しており、後期研修医の学びの方法などを共有しながら、指導医やプログラムへのフィードバックを行う予定。
- ・ 費用的な面では、プログラム登録料の還元によるプログラムやブロックに対する援助が必要なのではないかという声が出ていた。この件について竹村副代表理事より、登録料は現在プログラム責任者の会の開催のために全て使用されており、各ブロックの行事の会場費などについては、その都度、話し合いという形で進めさせていただきたいとの発言があった。
- ・ プログラム責任者の会の副代表2名はまだ決まっていないが、今後、活動に応じて考えていく予定である。

◇ FD 委員会

草場理事より、10月に開催された第2回指導医養成ワークショップの内容について報告があった。今回、参加者のニーズ調査を行った結果、対象者をある程度明確にした指導医養成を行う必要があると認識し、来年度は回数や内容等について検討し具体化していく予定であることが述べられた。また、第3回は2009年2月に東大で行うことが報告された。

◇ 若手家庭医部会

冬期セミナー担当の松井先生より、第4回冬期セミナーの準備状況について以下の報告があった。

- ・ 2009年2月14日、15日に東京大学で開催。定員100人。
- ・ 若手家庭医部会の一番のビジョンである「学びのサポート」を意識した内容。
- ・ 募集開始は12月の上旬を予定しており、プログラム責任者の会には、研修医への出席の呼びかけをお願いしたい。

また、講師謝礼について理事会の意見を含めて検討した結果、謝礼無し・旅費支給・参加費無料とすることが決まった。

◇ 学生研修医部会

小林理事より、第 20 回夏期セミナーについて、会計報告はまだ出来ていないがほぼ予算通りとなる予定であることが報告された。また、第 21 回夏期セミナーは、2009 年 8 月 7 日（金）～9 日（日）に群馬県の「ホテル磯辺ガーデン 舌切雀のお宿」で開催を予定しており、内容について鋭意検討中であることが報告された。

4. ワーキンググループ報告（担当理事または代表者）

◇ 患者教育パンフレット作成ワーキンググループ

松下理事より、現在 5 つほど形が出来上がってきており、今年度末までにある程度の形に仕上げる方向で進めていることが報告された。

5. 3 学会の合同について

山田代表理事より、3 学会合同について以下の報告があった。

- ・ 隔月ペースで、3 学会の代表が集まり審議を続けており、現在の大きな課題は合同認定に関する内容である。
- ・ 法人化検討委員会にて進められてきた定款作成は、前回の会議（10 月）で定款のひな形が提示された。
- ・ 法人の名称や定款に記載すべき法人の活動目的は、3 学会合同会議で作業を進めている。
- ・ 学会誌検討委員会が新たに設置され、当学会からは藤沼理事と長理事を委員として選出した。
- ・ 日本医師会との合同協議は、総合医の認定に関する事項などが多少難航している。
- ・ 厚労省では「安心と希望の医療確保に関する具体化ビジョン」検討委員会の下に「医療における安心・希望確保のための専門医・家庭医（医師後期臨床研修制度）のあり方に関する研究会」が設置され、葛西副代表理事が班員の一人になっており、12 月 5 日の次の班会議に 3 学会の会長が招聘されている。
- ・ 新学会の設立当初の役員は現行の 3 学会の理事をそのまま移行し、その後は直接選挙で選出する予定である。

6. 後期研修プログラム三次募集の申請について

竹村副代表理事より、後期研修プログラム 3 次募集の申請について説明があり、2008 年 12 月 1 日（月）～2009 年 1 月 18 日（日）まで受け付けることが決定した。

また、審査方法についての見直しが提案され、審議の結果、申請書のみ審査を担当する

「認定プログラム審査委員会」を新たに設置することが決定し、大西理事、西村理事、草場理事が委員となった。

7. 家庭医療専門医認定試験の要綱や提出書類について

大橋理事より、専門医認定試験に関する書類について説明があった。

特に事例報告書（ポートフォリオ評価）の内容について意見交換が行われ、今回の意見を踏まえて後期研修（認定）委員会で進めていくことになった。

8. 第23回（2008年）学術集会収支報告

山田代表理事より、収入750万円に対して1150万円の支出があり、収支差額として400万円弱の赤字となったことが報告された。

9. 第24回（2009年）学術集会について

雨森理事より、2009年5月30日、31日に京都国際会館で開催される合同学術会議の進捗状況について以下の報告があった。

- ・ 講演とシンポジウムとワークショップを合わせて30個を用意しており、そのうち当学会の企画は半分。
- ・ 11月中にオープンにして、12月中に登録開始を予定している。

10. 平成20年度 日本家庭医療学会 研究補助金について

今回は課題研究を設定せず、自由研究のみを募集することとなった。

11. 特別賞（田坂賞）について

選考委員会の委員長について、内山理事に依頼することが決定した。

12. 倫理委員会委員長の選出について

倫理委員長として山本理事が選出され、承認された。

13. その他

山田代表理事より、白浜理事の功績を何らかの形で残したいとの提案があった。